明日を拓く

伝統芸能を未来へ

飯南神楽団　団長
石飛 康則さん（頓原）

現在の団員数と活動は

総勢17名で、全員が舞手や奏楽など、どんな役割もできるように取り組んでいます。

今年で結成15年を迎えました。年末には記念公演をやりたかったのですが、現在の新型コロナの状況から来年に延期する決断をしました。

例年なら大小合わせて年間30公演を行っています。

今年は正月と2月に1回ずつ、9月に入り19日に八神、20日に谷、10月24日に三次のiまるシエで舞うことで、計5回の公演となりますが、他の神楽団に比べると多い方です。

新型コロナ禍で団員のモチベーション維持に苦労が多かったのでは

一人ひとりが感染拡大防止対策をキチンと守って、絶対この神楽団から感染者を出さないということと、いつでも練習を再開できるようにしておこうと申し合わせはしていました。それと今年は色んな衣装を直したり、新調したり、それができてくる度に皆に見せて、再開時にはこれが着られるよなど話してきたので、その辺もモチベーションを下げずに来られた理由じゃないかと思っています。

熱い思いを伝える練習指導

飯南神楽団の特徴は

とにかく元気がある。よそにはない迫力を出せることですね。声も腹から出せるよう、日頃の喋りでもトーンをあげて声が通るよう個々に努力をしているようです。奏楽もメリハリをつけて盛り上がりを出せるように指導しています。若い団員がもう少し経験を重ねるとより味が出てくると思います。

飯南神楽団が最初に習った基本があるので、これは絶対に崩さないようにしています。

演技指導中の石飛さん

今後の目標は

神楽が途絶えることなく継承されて行くこと。団員が神楽の魅力を伝え続けて、若者がこの神楽団でやってみたいと思ってくれるような神楽団であり続けたい。

今は、飯南高校生が来年の神楽甲子園を目指して活動を開始していて、団員が指導に携わっています。本当は、毎週二日の練習に子どもにも参加してもらいたいけど、時間的に無理があります。

地域の方々や町民の皆さんの応援のお陰で活動できています。声がかかれば出向き、迫力のある公演を見ていただくことでお返しをしたいと思います。

今月の表紙写真

華やかな衣装と躍動的な囃子を舞台に舞う飯南神楽団。この日は八神のさつき会館での敬老会慰問公演で「山姥（やまんば）」を舞いました。抗（あらが）う坂田金時（さかたのきんとき）に眼光鋭く囲む源頼光（みなもとのらいこう）と渡邊綱（わたなべのつな）が挑むという人気のある一場面で、情感豊かな渾身の舞い姿に感動の拍手が鳴りやみませんでした。コロナ禍で披露できない日々が続く中でも、練習には余念のない飯南神楽団の原動力は若者たちです。神楽も飯南町の大切な宝の一つだと再認識しました。

編集後記

山碕町長は今期限りで退くと表明しました。飯南町長として16年間ご苦労様でした。

合併当初は、夕張市の財政破綻を受けて厳しい財政指標が設定され、飯南町は島根県で実質公債費比率が最悪と報道される中で、町長はじめ全職員の給料カット、議会もこれに協力したという、そんな時期でした。

9月7日の山陰中央新報には、松江市出身の太田充さんが財務事務次官に就任され、インタビュー記事が掲載されました。目に留まったのは「国の借金は国民の借金だ」との発言箇所でした。

お気づきの町民の方もおられると思いますが、この度の国債を発行して国民全員に10万円を交付した特別定額給付金は、国全体の貸借で見ると、政府の負債増は国民の資産増になる事実を明らかにしました。

政府の負債を国の借金と言い換え、国民に転嫁する悪質なすり替えがこの30年間行われ、消費税増税によるデフレーションの進行で国民の生活のみならず、地方自治体の運営も圧迫して来ました。

このような中での行政運営は大変でした。ご苦労様でした。

議会広報編集委員　門　眞一郎

飯南町議会　島根県飯石郡飯南町下赤名880番地　飯南町議会事務局　TEL0854-76-2190　FAX0854-76-2867